

2011年10月6日

東日本大震災被災文化財復旧支援,世界へ発信

ワールド・モニュメント財団、「2012年文化遺産ウォッチ」を発表：
世界中で67件、日本からは大震災被災文化遺産を含め3件が選定

- ◆ 国や文化の枠を超え、歴史的建造物などの文化遺産の保護・保存活動を行っているワールド・モニュメント財団（World Monuments Fund: WMF/ 設立1965年、本部：ニューヨーク、理事長：ボニー・バーナム）は、2011年10月5日（米国ニューヨーク現地時間）、「東日本大震災被災文化財」を2012年版「ワールド・モニュメント・ウォッチ（World Monuments Watch：以下「文化遺産ウォッチ」と称す）」に選び、“緊急に保存・修復などの措置が求められている文化遺産”として、広く世界に向けて、その現状と復旧支援の必要性を訴えると発表しました。この2012年版「文化遺産ウォッチ」に選定された文化遺産は、日本を含む41カ国/地域に所在する67件に及びます。
- ◆ また今回、日本からは「東日本大震災被災文化財」の他に東京の「旧平櫛田中邸・アトリエ（台東区上野桜木）」と京都の伝統的木造都市住宅「京町家群」（前回2010年版に続き2回目）の、計3件が2012年版「文化遺産ウォッチ」に選定されました。このように、一度に複数の文化遺産が選定されたのは日本では初めてです。
- ◆ 「文化遺産ウォッチ」はWMFが1996年より隔年で、“緊急に保存・修復などの措置が求められている文化遺産”を世界中からの申請を得て、選考しリストとしてまとめ、広く配信し保護活動の必要性を訴えるというプログラムで、今回が9回目となります。そして、社会的・経済的な発展や地球環境保護を、文化遺産保護との調和の中で図る必要性が今まで以上に強く求められているということが、今回選定された67件の文化遺産全体を通じて明らかになりました。
- ◆ 選定された文化遺産には、ユネスコ世界遺産でもあるナスカの地上絵（ペルー）など世界的に著名なものから、ティエベレのクール・ロワイヤル（ブルキナファソ：西アフリカ）という地方の宝として親しまれているものまで、多様なものが含まれます。またその地理的分布は、都市部（例：米国サウスキャロライナ州歴史都市チャールストン）や地方（例：ベトナムのハロン湾にある「浮かぶ漁村群」）を含め世界的な広がりをもちます。そして対象も宗教的建造物、墳墓、住居、宮殿、橋、歴史的町並み、遺跡、庭園、駅舎、そして集落群など多岐にわたります。（詳細：<http://www.wmf.org/watch> 英文）

<日本の選定文化遺産に関して>

- ◆ 「東日本大震災被災文化財」(特定の文化財でなく、主に東北、関東などの被災地域にある被災文化財として広義に選定したもの):平成23年3月11日の大地震及び大津波は東日本の広範な地域に大きな被害をもたらし、多くの尊い命が失われました。また、人々の心の拠り所となる文化遺産にも、大きな被害が及びました。国の文化財保護法によって保護されている文化財に限っても700件以上が被災しました。神事や祭事など、伝統的行事として継承されてきた数多くの無形の文化財も、伝統的な職人技とともにその存続が危ぶまれています。被災した地域社会の復興とともに、そこに根ざしてきた文化基盤を復興するための支援は今日強く求められており、今回の選定に至りました。現在、被災地域主導による文化財復旧活動を国内外の協力を得て支援するため、「東日本大震災被災文化財復興支援事業 (SOC: Save Our Culture: “心を救う、文化で救う”）」が、平成23年11月の立ち上げを目指して準備されつつあります。(申請者:文化財保護・芸術研究助成財団/ 推薦者:文化庁)
- ◆ 「旧平櫛田中邸」: 広大な近代都市、首都東京の中には、未だに往時の文化を伝えるものが珍しく残っています。老朽化が進んだ建物と地元の保存活動グループへの支援が求められている旧平櫛田中邸・アトリエもそのひとつです。明治以降、近代化を歩む東京で芸術家達のコミュニティを形成しつつあった地域社会、上野・谷中。その地で明治・大正・昭和の近代彫刻を発展させたひとりの彫刻家と横山大観など同志の美術家たちにより建てられた旧平櫛田中邸は、大正期の住居建築であり、また近代アトリエ建築の先駆けです。所有者や関係者と地域住民や芸術家の協力を結び、地域主導でその社会に残る歴史と文化を保存する、という大切な取り組みの実例として貴重です。(申請者: NPO たいとう歴史都市研究会/ 推薦者: 東京藝術大学大学院美術研究科)
- ◆ 京都の伝統的木造都市住宅「京町家群」: 前回の2010年版「文化遺産ウォッチ」に選定されたことは、“京町家が歴史的木造建造物としてのみならず、京都の伝統的生活様式を伝え且つ京都の歴史的町並に欠かせない文化遺産として再認識され、生活文化を語り体現する歴史遺産として再生していく”、という地域社会の期待に添いつつあります。京町家が抱える課題は、歴史地区をもつ世界の他の都市にも共通しており、これからの持続的な文化遺産としての継承のためには、更に今まで以上、都市開発上の、また財政的な、また規制上の課題等を地域社会で協調して解決していくことが求められています。時同じくして今回の選定が、文化的価値を持つ京町家などの建造物の増改築を容易にできるように新条例を定めよう、という京都市の動きと重なったことは、京都地域社会にとり、京町家再生のための大きな励みとなるはずです。(申請者: 財団法人京都市景観・まちづくりセンター/ 推薦者: 京町家再生研究会)

この件に関するお問合せは: ワールド・モニュメント財団 稲垣光彦

電話: 080-6726-1308 e-mail: mitsuo61@gmail.com